

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。
市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

それでは、新型コロナウイルスの感染状況の報告について話題といたします。
まず、昨日の新型コロナウイルス感染症の対策本部会議において、まん延防止等重点措置の適用について協力することを決定いたしました。静岡県にはその旨をお伝えするとともに、その要請内容については地域の実情に合った合理的な内容になるよう申し入れをいたしましたので、初めにそれを説明いたします。大きく3点あります。
まず一つ目は、後ほど説明いたしますが、私たちは静岡市の状況でのデータが積み上がっております。その観点から、本市では飲食店や大規模集客施設が感染拡大の大きな要因とはなっておりません。故に、酒類の提供禁止や大規模集客施設の時短営業については必要ないのではないかと考えております。
次に重点措置の対象期間については、本市の感染状況に改善が見られた場合には速やかに対象地域から外していただきたいということも申し入れをいたしました。
さらに、これは県の市長会、町村会としての申し入れとなろうかと思いますが、まん延防止等重点措置が適用されている大半の地域では県が実務と費用の全てを負担しております。よって、静岡県も重点措置の適用に係る事務や費用は全て県で負担していただきたいということを要望する予定になっていることを申し添えます。
こうした申し入れに至った現在の感染状況を、市民の皆さんにも、ぜひ、ご理解をいただきたいと思いますので、ここで詳しく報告をさせていただきます。スライドをご覧ください。
このスライド1は、第4波に入ったと思われる5月1日から昨日までの新規陽性者数の推移です。5月13日に29人の陽性者が発表をされてから少しずつ感染が落ち着いてきておりましたが、先月の4連休を境に増加に転じております。学校が夏休みに入ったことにより人の移動が増えていることが影響している等々思われますが、昨日まで12日連続で前週と同じ曜日の数字を上回っており、8月4日には5月のピークを上回る36人の陽性者が確認をされております。
次のスライドをご覧ください。こちらが直近の指標の数字です。人口10万人当たりの新規陽性者の数については、8月1日に5月26日以来67日ぶりにステージ3の指標を上回り、昨日時点では22.84人となっております。この赤枠の部分ですね。病床使用率もステージ3、PCR陽性率はステージ4の指標を上回っており、新規陽性者発生数の直近1週間とその前の週との比較が昨日までに2.12倍となっておりますので、感染急

増と言ってよい状況になっていると判断をしております。次のスライドをお願いします。このように陽性者が急増している主な要因として、市内でも発生が確認をされているデルタ株が挙げられます。ご承知のとおり、デルタ株は感染力が強く、若者でも重症化しやすいなどの特徴があります。県からも急激にデルタ株への置き換わりが進んでいるという報告がありましたが、こちらの表のとおり、静岡市でも直近1週間の検査の数に対してデルタ株の陽性率が53%と上昇をしております。次のスライドをお願いします。年代別に陽性者の数を見ても、今のところ5月からあまり変化はしていません。引き続き20代から50代までが多く、全体の7割上を占めています。次のスライドをお願いします。

次は、陽性者の推定感染経路です。7月の陽性者208人のうち、およそ6割に当たる131人について感染経路を推定することができました。131人のうち、およそ7割が陽性者の濃厚接触者または陽性者との接触が確認された方が占めています。このデータを今年1月から3月までの数字と比べてみると、注目すべき点が2点あります。1点目は県外の感染流行地域との往来があった人の比率が上がっている点です。つまり、人の移動が増えていることが感染増につながっている可能性が高いということでもあります。2点目は陽性者と接触があった人の比率も大きく上がっている点です。濃厚接触者に当たらない接触者が感染しているケースが増えているということになるかと思えます。ここから分かることは、デルタ株への置き換わりによってウイルスの感染力が高まり、感染増につながっていることを示していると考えております。次のスライドをお願いします。

冒頭申し上げたことでありますけれども、131人の推定感染経路は家庭内がおよそ3割、職場内がおよそ3割であります。つまり、生活を共にする場での感染が、それを防ぐことが難しいということが分かりました。一方、ここから分かることは、本市では飲食店が感染経路と推定されるケースは、決して多くありません。次のスライドをお願いします。

次に感染の原因となったことが疑われる行動についてです。感染経路が推定できた131人のうち家庭内での感染を除く89人について調べてみると、およそ7割に感染の原因となったことが疑われる行動が確認できました。このデータからもやはり感染リスクが高いといわれている行動が実際に感染に結び付いた可能性が高いと考えられます。以上がデータに基づく説明であります。

市内でもデルタ株への置き換わりが進んでおいて、今まで以上に感染拡大のリスクは高まっています。これまでも首都圏での感染拡大が静岡市にも波及をしてくるので、現在の感染急拡大の影響も避けられないものと思えます。夏休みで、どうしても人流が増えてしまうこの時期でありますので、静岡市としては、今は“いのち”を守る、そして、医療現場を守ることを最優先として、まん延防止等重点措置の適用により人流を抑制すべきと判断をしたところであります。

そこで最後に、事業者そして市民、それぞれ皆さんへのお願いであります。事業者の皆さんには、夏休みの需要を期待されておったと思いますので、心苦しいのですけれども、今回のまん延防止等重点措置の適用により、なんとか今月いっぱい、8月いっぱい感染を抑え込んでいきたい。ご協力をお願いいたします。しかし、9月からは経済の回復にかじを切っていくことを目指したいと思っております。そのことも申し添えます。それに向けて引き続き事業者の皆さんの感染リスクを下げるための設備の充実や取り組みの強化を応援をしております。飲食店や宿泊施設については、県の安心・安全認証制度という第三者認証制度もありますので、ぜひご活用を検討してください。それと連動した市の飲食店の感染症対策促進のための奨励金についても、対象期間の延長を準備しております。

一方、市民の皆さんへのお願いであります。特に感染者が多い20代から50代の皆さんは仕事での移動などもあり、外出しないわけにもいかないとは思いますが、感染をしない・させないという意識と行動を今月、徹底していただけるようお願いいたします。感染リスクが高いといわれている行動が、実際に感染に結び付いていると思われるので、マスクの着用、3密ではなく1密でも避けるなどの基本的な感染予防対策はもちろんのこと、できるだけ人と人との接触を減らすなど、より慎重な行動をお願いいたします。

もちろんワクチンの接種に期待をしております。コロナウイルスとの長い闘いは、地道に基本的な対策を実践することと並行してのワクチンの接種率の向上であります。市の職員も人流のチェックという観点から、ゴールデンウィークにも実施をいたしました。静岡駅新幹線改札にて啓発活動を行い、感染予防に取り組んでまいりたい、お盆の期間中それを実施したいというふうに、努力をしております。市民の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただ今の発表につきまして質問をお願いいたします。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。冒頭おっしゃった3点の県への申し入れ事項なのですけれども、一つ目に酒類提供禁止や大規模集客施設の時短営業は必要ないのではないかということですが、一般の飲食店の時短営業は、これは要請も必要だろうというお考えだということでしょうか。

◆市長

おっしゃるとおりです。

◆NHK

酒類の提供禁止は必要ないのではないかとありますが、今、発表していただいた感染動向の中で、4—3の感染リスクの高い行動ある人、64人のうち40件が会話をしながらの食事だったと、これはやっぱり酒類の提供に関わる部分だと思うのですが、これは禁止、必要ないのではないかとというのはどういう、ご理解なのでしょうか。

◆市長

それはお酒を飲んでもマスクの会食を遵守する、市民の行動に節度を持っていただきたいということを、お願いしたいと思います。

◆NHK

わかりました。そして、静岡市だけ感染動向を踏まえて、そういった要請を緩和してほしいとなった場合に、事業者が静岡市だけ協力金を受け取れないという事態になる、そういった不公平感が出ることは心配されないのでしょうか。

◆市長

いや、それはまん延防止法の適用を受けるわけですから、適切な協力金はいただけるものだとは認識しています。いずれにせよ、今日、午後に県が会議を開いて、私どもの申し入れも配慮をして、決定されることでもありますので、県の決定、権限は県にありますので、その静岡県でのまん延防止等措置の内容面がどうなるか、その決定には私たちは従おうというふうに思っています。

◆NHK

では、静岡市の市長としては、事業者は酒類の提供禁止をされない、大規模集客施設も時短営業は必要ないけれども、協力金だけは受け取れるという扱いにしてほしいということなんでしょうか。

◆市長

いや、そうではなくて、私たちはこの申し入れをいたしました。その申し入れに従って、県は午後の議論をしていただきたいということでもあります。

◆NHK

すいません、もう一度。酒類の提供禁止は求めないようにしてほしい、けれども協力金はいただきたい、こういうことですか。

◆市長

法律の枠として、まず、まん延防止等の措置をすることによって、絶対条件、やらなければいけないのは時短の要請であります。それは協力をする。しかしながら、酒類の提供は、例えば感染が抑えられているんだったら県によっては臨機応変に対応していいということでもあります。また、1,000 m²以上の商業施設についての時短要請も、県の権限の中でコントロールできるというのが法律の仕立てになっておりますので、そのことについて、市としてデータに基づいて申し入れをするということではありますが、最終的には、今日の午後の県の会議において決定されるものだというふうに認識しています。

◆NHK

分かりました。では、市民への呼び掛けとしては、静岡市としては酒類の提供禁止は必要ないと考えているけれども、それは県のほうで議論して要請してもらうとして、お酒を飲んでもマスク会食は遵守してほしい、というのが市としての呼び掛けになるということでしょうか。

◆市長

それは一つの例でありますけどね。お酒を飲んでも市民の皆さんには節度ある行動をしていただきたい。これはお店でもお家でも同じですけども、そのことをお願いしたいと思います。

◆NHK

分かりました。あと、全国知事会が要請している、この夏、帰省も含めて都道府県をまたぐ移動は控えてほしいという、この知事会の要請の立場と、市長のお考えは一致するかどうか、いかがでしょうか。

◆市長

もう一度お願いします。それから、先ほど、とにかく店が悪いのではないということですね。市民の行動の節度を促したいということが、先ほどお願いしたことであります。

◆NHK

分かりました。そして、全国知事会が、『この夏は帰省も含めて都道府県をまたぐ移動は延期・中止してほしい』ということ国から呼び掛けるべきだ』という主張をされておりますが、この「帰省も含めて都道府県をまたぐ移動は控えて」というのは市長も同じお立場でしょうか。

◆市長

全く同じです。

◆NHK

わかりました。私から最後になりますが…

◆市長

しかし、やむを得ない帰省があると思いますので、市の職員が努力して、お盆期間中、駅等に立って感染防止の啓発をするということでもあります。ですので、市民の皆さんにもご協力をお願いしたいということでもあります。

◆NHK

私から最後ですが、その啓発活動なのですけれども、まさに職員が出て、市長も出て、取材まで受けてということ考えていらっしゃるようですけれども、県の後藤参事からは「一歩たりとも外に出ないで」という強い…

◆市長

はい？

◆NHK

一歩たりとも外に、外出をしないでという強い呼びかけも先週あった中で、この呼びかける方法、いろいろ方法があると思うんですけれども、市の職員や市長が外に出て駅から、改札から出てくる方に接触して呼びかけるという、この方法を取ることに矛盾はないのか…

◆市長

まず、私たち静岡市は基礎自治体として市民の生活に一番身近な存在でありますので、市民生活の実情についてはよく承知しております。そういう点で県の後藤さんが「一歩たりとも外に出るな」ということを言ったのは言い過ぎだというふうに、私は思っております。

それから、お盆の期間中に静岡駅等で感染予防の啓発をする、これは危機管理部が本当に頑張って準備してくれました。梶山統括監、ちょっとそのことについての考え方や決意を少し申し上げていただきたいなと思います。

◆司会

少しお待ちください。

◆危機管理統括監

危機管理統括監の梶山でございます。お盆と夏休みというところで人の流れが増えるというのは一般的に予測される内容だとは思いますが。これまで危機管理、静岡市、関連部局と協力して、ゴールデンウィークと、少し数字が上がった、感染者の数字が上がった5月の末は、若者を対象にということで市内の大学を中心に啓発活動ということで実施した実績がございます。この時にも若い人たちがすごく関心を示してくれて、自分たちでもビラ配りに協力してくれるなんていう方々もいらっしゃいました。そういった意味で、私たちが、長い間、多くの時間ということではないかもしれないですけども、こうして市民に向けて、あるいは電車を使って静岡に訪れる方々に向かって、「静岡、こんなふうに頑張っていますよ。皆さん気を付けてくださいね」という呼びかけをするのは非常に大切なことなのかなと思います。そこで、そういった呼びかけを受けた方々がお家に帰り、あるいは友達と会ったときに少し自粛していただける、行動を抑えていただけるということが大きな波紋を広げていくのかな、というふうにも期待しておりますので、今回JRの改札の方でこの活動を、第3弾ということでさせていただきます。よろしくお願いいたします。

◆NHK

わかりました。一歩たりともという言葉はいかななものかというのはご主張としてはわかりますので、ただ、例えばJRに協力を求めて車内放送や構内放送をしてもらう、看板を掲げるという、人を伴わない方法もありえたかと思いますが、市長は、ここは人が出て、帰ってきた方に話しかけるという方法が、市民へのメッセージとしても最も適切だと思っていらっしゃるということでしょうか。

◆市長

そうですね。静岡市の職員も一生懸命、まん延防止等の努力をしているという姿を見せていきたいなと思っています。ですから、市民の皆さんに協力をしてほしい、酒類を提供しても節度ある飲み方をしてほしい、泥酔したり悪ふざけをしたりというような行動は慎んでほしいということをお願いかけたいと思います。

◆NHK

啓発のためであれば、人と人との接触をあえて啓発という形で作ることも、それは方法の一つであるという、わかりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、ただ今の発表でご質問を、じゃあ、日経新聞さん、お願いします。

◆日本経済新聞

日本経済新聞です。飲食店の酒類提供についてお伺いしたいのですが、これを県に要請するのは第三者認証制度を受けた飲食店だけなのか、それとも市内全域の飲食店が対象なのかというところを、まず1点、お伺いしたいです。

◆市長

飲食店にもモラルを求めらる中で、県の認証制度を積極的に活用していただきたいと。そして、その認証を受けたところは、私たちは太鼓判を押して利用してほしいということをお願いしていきということ、先週、静岡商工会議所の酒井会頭からも強く要望されておりますので、そういうモラルを持ったお店について酒類の提供の禁止まではしないほうがいいのではないかというのが、これまでのデータを示して申し入れをしたところであります。

◆日本経済新聞

ということは第三者認証制度を満たしたお店に関しては、酒類の提供を認めるべきだというようなお考え。

◆市長

そうですね。もし県がこのことを認めていただく決断を、今後していただいたら、そのあたりのところを、さらにいっそう強めていきたいと思っております。私が申し上げたいことは飲食店が悪いのではないということでありまして。市民の皆さんのお酒の飲み方、節度を持っていただきたいということでありまして。

◆日本経済新聞

ありがとうございます。ただ、今、たしか静岡市のこの認証制度の普及率というか、市内、飲食店 4,000 店のうち、ほとんど、まだ大半が終わっていないような状況だと思うのですけれど、こうしたことに対して、今後、市としてはどのように対応されていくのかなということについてお伺いしたいです。

◆市長

それも静岡商工会議所の要望事項の主要な論点でありますので、もっと認証への手続きの迅速化、加速化をお願いしておりますし、認証されたお店については、そこを認証されましたというだけではなくて、その飲食店は、ぜひ、ご利用くださいという積極的なキャンペーンを県ともやっていくということも、これから視野に入れたいと思っております。ただ、8月はまん防の期間になりましたので、これも、9月以降と話になろうかと思

ます。

◆日本経済新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他、静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。今の関連で、県に対してお酒の提供禁止は必要ないのではないかという申し入れなのですが、そうすると、例えば、まん防の適用を受けずに、市として独自に何か取り組みをという選択肢もあったかと思うのですが、改めてまん防の適用を受けるに至った理由について改めてお聞かせいただけますか。

◆市長

やはり大中小で考えなければいけないということですね。国が静岡県も対象にと、とにかく8月は全国的に抑え込むんだという決意で、そのことを決められたということを受けて、私たちも、この8月はまん防を受けて、そして“いのち”を最優先しようということに、昨日、決定したところであります。

ただし、首都圏とは違う本市の実情を合理的に判断して、そのことについての申し入れなり、主張なりはしなければならぬというふうに、私は思っています。

◆司会

その他いかがでしょうか。中日新聞さん、お願いします。

◆中日新聞

中日新聞です。県に対する意見について、飲食店や大規模集客施設が大きな感染拡大の原因になっていないという話で、これまでのデータが積み上がっているという説明があったと思うのですが、それはどんなデータなのかというのを、もう少し説明もらえますか。

◆市長

先ほど説明したデータに基づいて、私は説明したつもりです。

◆中日新聞

それはこの資料の、家庭内での、以外での感染リスクが高い行動とか、そういうまとめ

ということですか。じゃあ、特別、飲食店や大規模集客施設が原因になっているかどうかを感染者の人に確認したりとか、そういうふうに、そこに絞って調査されたとか、そういうことはないですか。

◆市長

4-2のパネルをもう一度見ていただければと思いますけれども、ここにあるように飲食店での発生原因というのは極めて少ないということです。ちょっと数字が見えないけれども、3。(てん)いくつですよ、ということです。

◆中日新聞

わかりました。

◆司会

ちょっと補足をさせていただきます。

◆保健衛生医療統括監

保健衛生医療統括監の長谷川でございます。この4-2の資料について、補足させていただきます。こちらの推定感染経路については、感染が確認された方について、感染が疑われる行動とともに、どちらのほうに行かれたとか、そういうことをお伺いしております。その中で、一応、それが原因であろうと思われるところが、例えば、外から来られた方で、また、それが前のページですね、4-1。そういった方たちがご家庭に戻られて、それで感染したり、また、職場内で感染するという例がございます。

また一方、その感染をされた、この7月1日から7月31日の中のデータでは、接待を伴うお店に行かれたというふうに、その感染が考えられる期間、その期間、発症される前に行かれたというような方がこの場合では4人。また、接待を伴わない飲食店に行かれたという方が1名ということでございます。また、これが、この方たちが、家庭に戻られて、また家庭で感染したというふうなものも、この家庭内感染というような中に含まれているので、ちょっと回っている感はございますけれども、感染者のルートからいきますと複数の要因が家庭内、それから職場内というようなところにはございますけれども、基本的に感染者本人から確認した情報では少ない、飲食店関係が少なくなっているという情報が確認できたということでございます。

◆司会

じゃあ、NHKさん。

◆NHK

今の説明、統括監の説明、非常に重要だと思うのですが、飲食店で感染した方が家庭や職場に持ち込んだケースがどれぐらいあるかというのを調べられているのでしょうか。

◆保健衛生医療統括監

そこまでは詳しくは個別には、申し訳ございません、データとしては捉えておりませんが、飲食店に行かれたというところで、その後ご家庭、濃厚接触者に当たられている方たちの感染が確認されているという例はございます。

◆NHK

まさに、そこが重要なのであって、直接その人が飲食店で感染したかどうかでなく、そこからウイルスが家庭や職場に持ち込まれたケースがどれぐらいあるかが、この飲食店での、特に飲酒を伴う飲食をリスクとしてどの程度見るかというのを定める上での重要な情報ですので、そこを調べてない状態で「飲食店での酒類提供禁止は必要ない」と静岡県として独自主張をされるのが、根拠がまだ足りてないのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

◆市長

そうではないですよ。そうではない。一般論として統括監は、そういうふうに戻るケースもあるということ参考として申し上げただけであり、やはり最初の、この接触点は、やはり家庭内、職場内が、飲食店、「接待を伴う」「伴わない」を合わせても4%弱ですので、圧倒的に多いんで、今まで飲食店が全ての根源だというような報道がどうしても先行していたので、そここのところは我々のデータに基づいて、少し報道の皆さんにも考え方を変えていただきたいと、静岡市の場合は特に。そういうことを申し上げているわけでありませぬ。

◆NHK

報道や政府の言うことが間違っているという指摘はされるのは結構なんですけれども…

◆市長

つまり静岡市の状況に応じてということですね。

◆NHK

その前提として市長が根拠とされている静岡市のデータが、この家庭内や職場内にウイ

ルスが持ち込まれた経緯が飲食店であるか否かを調べてないのではないのでしょうか。

◆市長

いや、だから、そういうことを申し上げているのではないということでもあります。今日のデータの中で、私は判断をしていただきたいということを申し上げています。

◆NHK

すいません、我々データを発表されたら、そのデータがどういう根拠に基づくかを検証する立場ですので、いまお尋ねする限り、家庭内、職場内にウイルスが持ち込まれた経緯として飲食店が、その前段階にあったかどうかはお調べになってないということだとすると、市の主張自体が根拠はなんなのかということになるのですが…

◆市長

分かりました。統括監がそういうことを言及いたしましたので、そのことを微細にもう少し、今日の記者の問題提起を受けて、調べて、後ほどまたお伝えしたいと思います。

◆NHK

ですから、結局、現時点で、今日、飲食店が悪いわけではないと一般論としてはおっしゃりたい気持ちは分かるんですけども、今日、発表されたデータをもって、それを、これが根拠だと言うのは足りないですよ。

◆市長

分かりました。ご指摘を受け止めさせていただきます。

◆保健衛生医療統括監

過去同じようなデータを発表させていただいていると思いますけれども、その時に比べまして、この飲食店関係のデータが減っていることは確かでございます。飲食店に行かれたという方から、ただ、これがうつるということは、これも推測の域は出ませんけれども、感染力が強くなっているウイルスの影響もあろうかと思っております。

◆NHK

いずれにしろお酒の提供が問題なのではないという根拠がちょっと、今日の発表のデータからは読み取れないので、家庭内や職場内にウイルスを持ち込んだ経緯はなんなのかというのが示されないと、それはお願いします。

◆司会

その他、いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いします。

◆読売新聞

今月から市政担当になりました、よろしくお願いします。県への申し入れについて、お伺いしたいのですが、これ、この県への申し入れが、県が認めるかどうかということについて、なにがしかの感触とか見通しを持ってらっしゃいますでしょうか。それと、もし認められなかった場合も引き続きデータを示しながら要望を続けていかれるということでしょうか。

◆市長

県が今日、静岡県の最終決定をされるということですので、その決定には私たちは従いたいと思っています。

◆読売新聞

見通しについては特に持ってないということでしょうか。

◆市長

昨日、県の危機管理のトップに私どもから申し入れたということでもありますけども、「なかなか難しいかな」というような印象は持ったと、担当から報告は聞いておりますけれども、私どもとすると、実態がこうだから、やはり申し入れはすべきだということでもあります。

◆司会

その他、よろしいでしょうか。では、幹事社質問のほうをお願いいたします。

◆NHK

幹事社NHKです。事前に差し上げていた質問、かなりの部分、いまの発表項目でお答えいただいていますので…

◆市長

そうですね。

◆NHK

触れられてない部分についてのみ伺います。こうした感染状況を受けて、静岡市は、静岡市として市民サービスや公共施設運営、イベント開催など、行政機関としての対応

を何かお考えでしょうか。お聞かせください。

◆市長

市民サービスや公共施設の運営については、これまでと同様であります。手指の消毒設備の設置やマスクの着用の徹底、室内の換気等々、基本的な感染症対策を行ってほしいということと、人流を抑制するという観点から各施設の実情に応じた対応を今後、検討していきます。

一方、イベントの開催については、国や県が収容率や人数制限、開催時における感染症対策の方針を既に示しておりますので、市もその基準に即した対応をすることとなります。イベントの主催者や参加者の皆さんにもご協力いただき、十分な対策を行った上で安全に実施をしていっていただきたいというふうに思っております。

◆NHK

補足ですが、公共施設については、再オープンした図書館ですとか、子どもの施設、「ま・あ・る」、「る・く・る」ですとか、お年寄りがたくさん集まる施設含めて、特に利用制限、抑制、時短というのは考えていらっしゃるということでしょうか。

◆市長

これも午前中、議論をしたんですけれども、県の今日の午後の最終決定を見て、我々、公共施設、どう対応するか、統一基準を作っていくというようなことも含めて議論を深めていきたいと思っています。

◆NHK

分かりました。コロナについての質問は、では、今の…

◆司会

よろしいですか。では、ただ今のご質問の関連で皆さまから何かございますでしょうか。よろしいですか。じゃあ幹事社の2問目をお願いいたします。

◆NHK

2問目です。静岡市議会の山本昌輝議員の交通事故対応と、給料および供託金の差し押さえの問題についてです。第一テレビさんの報道以降、非常に関心を集めました。市長自身がこれについて直接聞いたり、あるいは市や市議会の事務局に寄せられていたりする市民からの意見にはどのようなものがありますでしょうか。

◆市長

私が直接聞いたこともありますけれども、議会事務局のほうからも議員として不適切な行動であったという意見が寄せられております。

◆NHK

市民の中からは、こうした議員が定める条例や予算に従わなくてはならないのかという厳しい意見もあります。今回の問題による市政の影響をどう捉えていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

行政をあずかる立場とすると大変残念であります。議員ご自身に責任を持って対処をしていただきたいと強く願っています。

◆NHK

最後に、山本議員の自民党の先輩であり、市政運営に山本議員を含む自民党市議団から支援を受けている立場として市長のコメントをお願いします。

◆市長

逃げ隠れをしない、議員ご自身で適切に対処をしていただきたいと。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

それでは、ただ今の質問に関連するご質問はいかがでしょうか。中日新聞さん、お願いします。

◆中日新聞

中日新聞です。今のコメントで逃げ隠れをしないというふうにおっしゃられたのは、逃げ隠れをしているという印象があるということですか。

◆市長

会派全体にも迷惑になる話だというふうに思っております。二元代表制ですので、議会は議会、会派は会派の考え方があろうかと思っておりますけれども、私とすると、かつて議会に所属しはじめの、やはり一人の行動によって悪貨が良貨を駆逐するということがあります。良識的に議員活動をしている仲間の議員の皆さま、たくさんおりますので、この

ことによって会派の迷惑にならないようにしてほしいな、というのが私の気持ちであります。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、その他のご質問があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。では、NHKさん、お願いします。

◆NHK

すいません、他に質問ないようですので。大谷の件について伺います。時を同じくして、熱海の件と時を同じくしてなのですけれども、大谷のほうで国立研究開発法人の、すいません、ちょっと固有名詞が今ぱっと出てこないのですが、ごめんなさい。農業・食品産業技術総合研究機構が造った盛土について、そもそも市のほうに条例に基づく届け出が出されていなかった。最近になってですか、転圧もちゃんとしていなかったことが分かったという問題ですけれども、これについて、機構のほうは全量を撤去しますと、すっかり反省の色を示されているのですけれども、全量を撤去するなら撤去するでダンプがものすごい数、大谷の住宅街を走ることになるので、それはそれで不安だと、小学校通学路でもあるということで、どういうふうにこの問題を解決するかということが、まだ決着が、道筋が見えない状態なのですが、市長として何か、どういう態度をとられるお考えがあるか、特に市としては関わらないか、そのあたりのお考えをお聞かせください。

◆市長

まずはおっしゃる通り、北大谷の自治会から対策についての要望書をいただいておりますので、解決に向けて担当課のほうに指示をしているところであります。静岡市としては大谷地区の住民の皆さんの不安を払拭する、安心安全を第一に考えておりますので、土地の所有者である国の機関、農研機構と地元の説明会などに市の職員も出席をして、解決に向けて取り組みを、対応を指示しております。すでに2回ほど説明会が開かれている、その時に市の職員も参加をしているという報告は受けております。

◆NHK

そして、その解決策について、全量を撤去しますという機構の説明に、それでダンプが往来されるのは、それはそれで困ると。ですから、敷地内処分でなんとかやれないのかというのが自治会の一部から出ている意見ですが、この意見が、なかなか認識が生まれない状況を市として仲裁されるお考えあるか、両者の協議の成りゆきに任せるか、いかがでしょうか。

◆市長

おっしゃる通りですね。仲裁というか、そのところの調整をなんとかできないかなというふうに模索をしていかなければいけないと思っています。

◆NHK

必要に応じて何らかの仲裁には入りたいというお気持ち…

◆市長

とにかく今まで農研機構と自治会のコミュニケーションが不足していたなというふうに私は受け止めております。農研機構さんがもう少し自治会に気を使ってほしかったなというふうに思っております。ですので、非常に、自治会からすると疑心暗鬼の気持ちがあるんだろうというふうに思っております。ここは実務的に少し補足ができれば、お願いいたします。

◆司会

少しお待ちください。

◆都市局次長

都市局次長でございます。先ほどありました土砂採取の件でございますが、地元のほうから要望書が出てきたのが6月29日、それで熱海の発災が7月3日ということで、すごく綿密な関係が出てくるかな、ということ認識して、私どものほうも対応しています。

ただし、先ほどお話がありました農研機構のほうも、令和3年2月11日に届け出は出ております。それで、うちのほうもそれを受理した中で内容を審査しているのですが、先ほどもありましたけれども、地元のほうの安全安心に対する思い、それと施主さんの農研機構の対応と、当初の施工時点での、ある程度の乖離があったのは、私どもも地元のほうの自治会、市民の意見を聞いて、その間に入って、先ほどの話もありましたけれども、なるべく仲介をして、いい方向で解決していこうというところを心掛けているところでございます。それも含めて、安全管理につきましては、ブルーシートの設置であるとか、現在に至るまでは現場のライブカメラの設置等も自治会と農研機構の間に入りまして、市のほうで仲介させていただいて、今後の土砂の搬出の話もうまく、そのところで調整をできればなと考えております。以上です。

◆NHK

では、これは静岡市の対応として伺いますが、熱海の土砂災害あって、市内の盛土点検、

全て実施したと思います。当然、自治体等の規制条例に基づく届け出が出ているところは、全て点検し直したはずだと思います。大谷の盛土を点検した時点で、あそこに転圧が、条例が求める 30cm 刻みの転圧がなされていないということは、市は把握していたのでしょうか。

◆都市局次長

あくまでも熱海の発災に際して、緊急点検につきましては、現場のほうで崩落崩土、それから水抜き管、それから沈砂池等の水処理施設の関係、それと周辺河川、水道系統の濁水、それから構造物の破損等の確認をしております。ですから、その前の段階で、先ほどありました盛土の転圧の届け出に対しての齟齬については把握をしておりますたから、私どものほうで、口頭で注意喚起をしており、先ほど出ております届け出に関しては令和3年12月20日までの期間になっておりますから、それまでに履行するようということで口頭の注意喚起をしております。

◆NHK

熱海の発災後の総点検については特に問題がないという説明が、我々に対してもあったと思います。どうして転圧をしてない状態が問題ないとして、特に個別に説明がされなかったのか、いかがでしょうか。

◆都市局次長

あくまでも先ほどもありました現在の段階で、施工中の段階でございます。ですから、施工中の段階で今までやってきたことに関して、認識したことに関しては注意喚起をしていましたが、現在の状況でこれ以上の危険度が増すかどうか、というのを緊急点検の内容として確認をいたしましたから、その時点で問題なしという発言をさせていただきました。

◆NHK

他の盛土については、見た目では分からない、中がしっかり転圧、押し固められているかどうかは確認を7月の総点検の時になさっているのでしょうか。

◆都市局次長

他の案件については、あくまでも先ほど言いました崩落崩土、水抜き管であるとか、周辺河川の水道系統の濁水等の目視ですから、その時点では行っておりません。

◆NHK

今ももしかしたら転圧されてない盛土が、市内、他にあるかもしれないという可能性を

否定できないということですか。

◆都市局次長

現時点では追跡の調査も含めてやっておりますが、現時点では認識はしておりません。

◆NHK

把握しきれてないということで分かりました。ありがとうございます。

◆司会

それでは、以上で本日の市長の定例記者会見を終了させていただきます。次回は8月の20日、金曜日となります。本日はありがとうございました。